

4 - 14 中部地方北西部（飛驒地方北部及び北アルプス周辺）の最近の地震活動(3) 1979年1月—

Seismic Activity in the Northwestern Chubu (Northern Hida and Japan Alps)
Region (3) January, 1979 —

京都大学防災研究所 上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門
Kamitakara Crustal Movement Observatory & Research Section for Earthquake
Prediction, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

前報¹⁾に引続き、上宝地殻変動観測所で観測した1979年1月から6月迄の飛驒地方北部の地震活動状況と、1979年後半に起きた北アルプス周辺の群発地震活動について報告する。

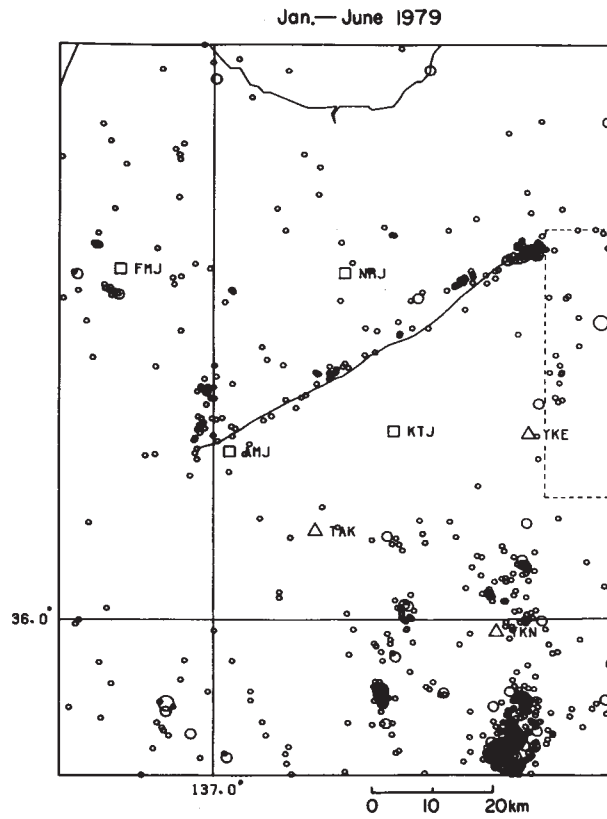
第1図は1979年6月迄の地震活動を示す。図中、地震のマグニチュードは震央の大きさを3段階に区分してあるが、大きい順に $M > 4$, $3 < M < 4$, $M < 3$ である。跡津川断層東部の有峰湖・立山付近、西半部の菅沼一天生間、乗鞍岳周辺、飛驒小坂・萩原付近の活動はほぼ定常的である。御岳山南方（長野県王滝村付近）の群発活動もこの時期には依然継続していた。

第1図中の東側の地域、北アルプス周辺では、第2図に示したように、1979年7月、9月、10月の3回にわたり群発地震活動が発生した。それぞれの活動は、7月槍ヶ岳西方、前震4個、本震7月22日 $M = 4.3$ 、余震29個；9月鳥帽子岳西方、群発型82個、活動後半の9月17日 $M = 3.7$ 、25日 $M = 3.5$ が発生して急速に終息、10月再び槍ヶ岳西方、前震3個、本震10月7日 $M = 4.3$ 、8日 $M = 4.1$ 、余震62個であった。この地域の活動としては観測開始以来最大である。

なお国土地理院の最近の上下変動測量結果によれば、高山－萩原－金山間、高山－高根－木祖間のルート中、第3図の斜線部分付近で、1972～1979年の間に最大2cm程度の土地隆起が見られるとのことであるので、地震活動状況¹⁾（1977年～1978年）と比較した。飛驒小坂付近、高根北方の活動はこの隆起地域付近にあたるが、他の地域にも多く活動が見られるため、関連性は明らかではない。なお11月6日に下呂町の阿寺断層付近に $M = 3.0$ 、 2.5 の2個の地震が起っており、従来低活動域と考えられて来た場所なので若干注目される。

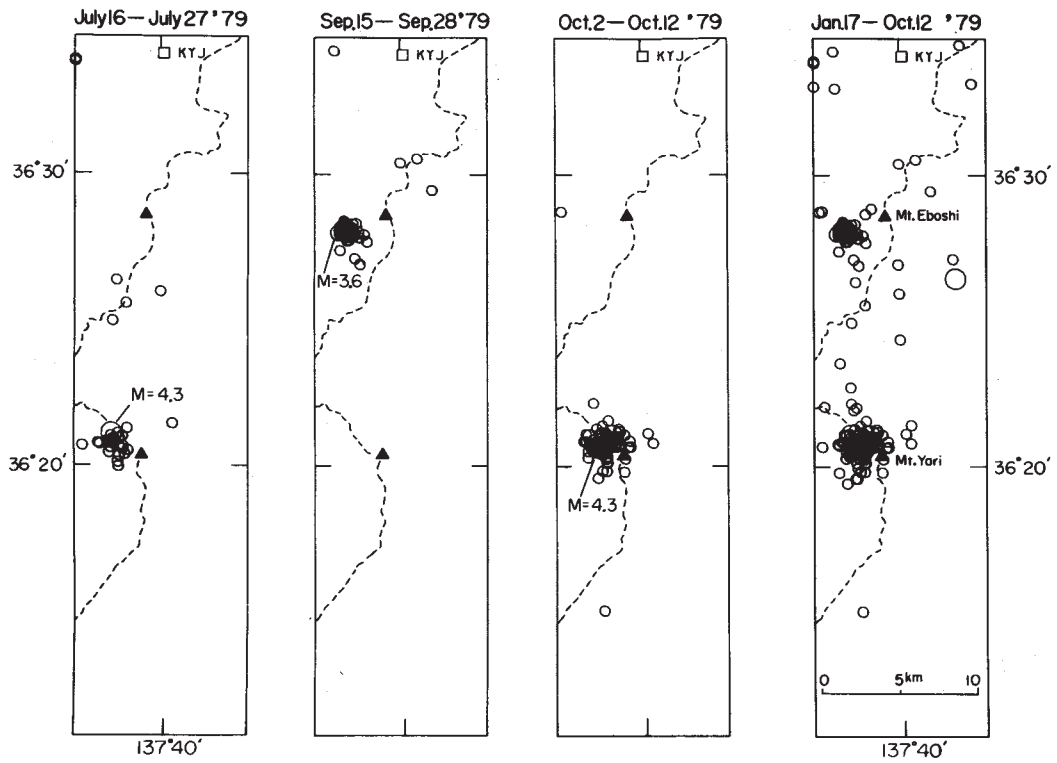
参 考 文 献

- 1) 京大防災研究所上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門、1978、中部地方北西部（飛驒地方北部）の最近の地震活動(2)、1977年6月－1978年12月、連絡会報、**22**（1979）、166－168。
- 2) 国土地理院：御岳山周囲の上下変動、連絡会報、**23**（1980）、120－122。



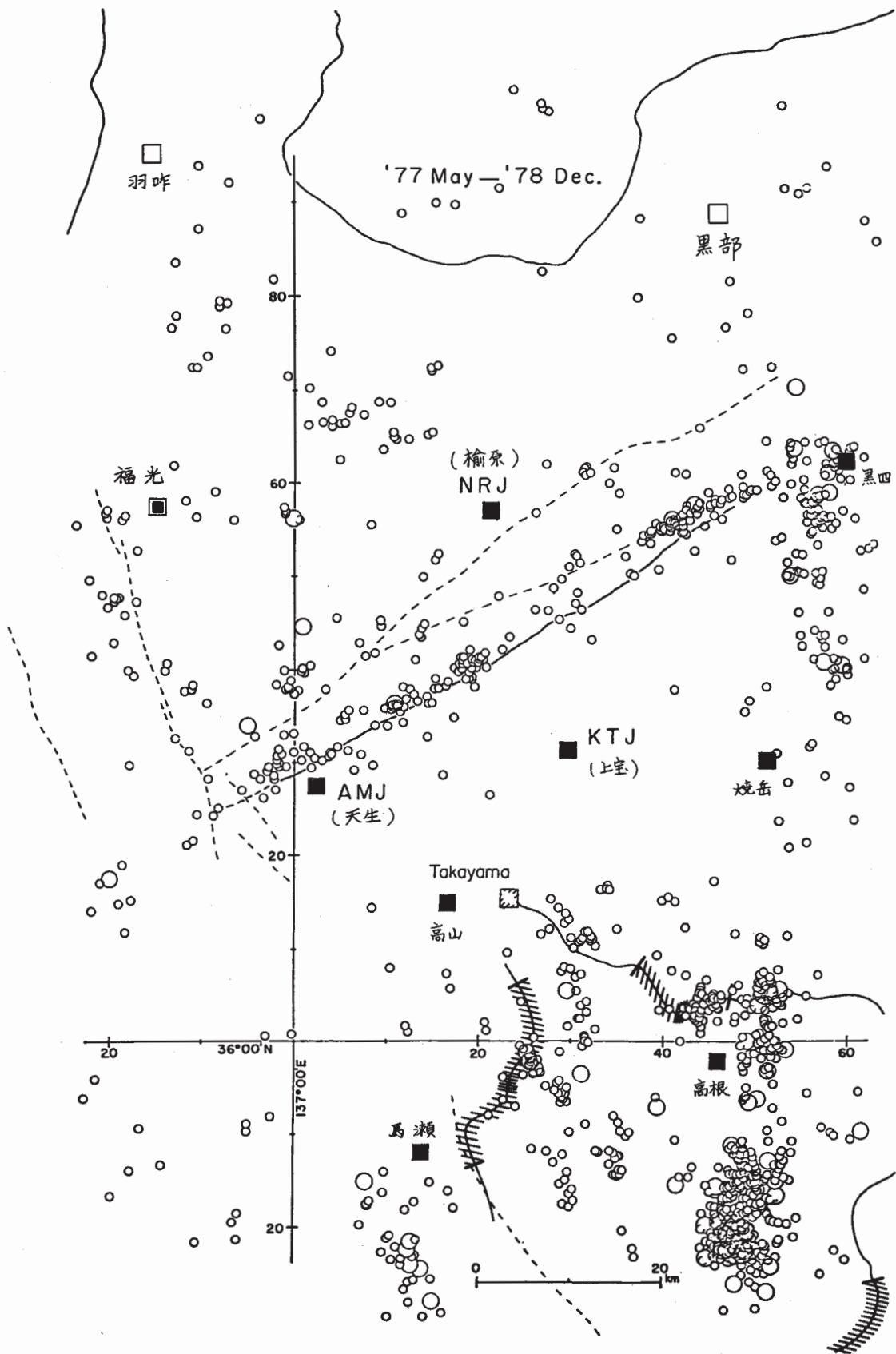
第1図 飛騨地方北部の地震活動（1979年1月 - 6月）

Fig. 1 Seismicity in the northern Hida region, January - June, 1979.



第2図 北アルプス周辺の群発地震活動（1979年）

Fig. 2 Swarm earthquakes around the northern Japan Alps region, 1979.



第3図 飛騨地方北部の地震活動（1977年6月－1978年12月）
と最近の土地隆起地域（斜線の部分）*
* 国土地理院資料による。

Fig. 3 Seismicity in the northern Hida region, June, 1977 - December, 1978, with ground-uplifted areas (shaded area) after Geogr. Survey Inst. (1979).